

第3学年 美術科 学習指導案

平成30年9月7日（金）第5校時

1 題材名 「ゲルニカ」って何だ！ ————— ピカソの表現と意思を探る ————— 【鑑賞】

2 題材について

(1) 生徒の実態

生徒は明るく素直で、授業に真面目な態度で臨んでいる。また、個々のよさを認め合う温かい雰囲気があり、のびのびと表現活動に取り組んでいる。1学期末のアンケート結果でも、ほとんどの生徒は自分で表現することが楽しいと感じていた。日ごろの授業では、美術は自己表現のひとつであるので、ものづくりの中で個々の意思を表現することに重点をおき指導してきた。また、個性を大切に自分のよさを表すことができるように、個に応じた指導に力をいれてきた。アンケートでは、入学してからこれまでに「だんだん自分の思うように作れるようになった」と答えた生徒が、4割近くいた。3年生になって、自分自身への思いや表現への深まりがみられるようになり、また一人一人が個性的な表現ができるようになってきたことから、生徒の成長を感じている。

しかし、ここ10数年来、子供たちの想像する力が弱くなってきているという実態が顕著に表れてきた。立体造形表現を指導する際、3次元空間で想像することを苦手とする生徒が増えてきていると感じる。幼い頃、実際に自分の手でものづくりを体験する機会の少ないことが要因ではないかと推測される。

これらの実態を踏まえ、今までの制作活動では、ただ見て描くのではなく「想像する」ことを重点に指導してきた。主に1年生では「夢の鳥」、2年生では「読書感想画」、そして3年生では「自分を見つめて」という想像を広げやすい題材を工夫し、一人一人の意思を引き出しながら、個性的な表現活動ができるよう取り組ませてきている。同時に、「夢を持つこと」「自分を見つめ将来を考えること」なども併せて考えさせてきた。本題材では、自分の周りだけでなく世界のことに関心を広げ、自分たちがどう生きるかについても考えさせたい。

1年生の鑑賞の授業では、よく観察し、自分の感じたことを大切にするよう指導してきた。毎学期必ず鑑賞の授業を実践した。これまで取り扱った作者や作品は、モネ、ニキ・ド・サンファル、ダ・ヴィンチ、ゴッホ、雪舟、等伯、北斎、若冲、原始古代美術、仏像彫刻、京都奈良の文化財などである。それぞれの作品のよさ、時代背景、作者の生き方などにも触れ、個々の感じ方を大事にする授業を行ってきた。美術の流れや変遷、作品を読み取っていくこと、作者の意思を想像すること等を、生徒はこれまで学んできている。

生徒の実態を考え主体的な学びを実現させるために、グループの話合いの時間を十分に確保し、生徒同士の会話から作品のよさを発見したりできるようにしたい。また、具体的な気づきのきっかけを教師が提示できるよう工夫した授業に努めたい。心動かされる芸術作品との出会いは、人生にゆとりと潤いをもたらし、心豊かにさせてくれるものである。感受性豊かな中学生という年代に、様々な作品と出合わせ、個々の感性を高めさせたい。

(2) 本題材を指導するに当たって

1枚の絵画は観る人の心を動かし、多くの共感呼び起こす一つの手段になり得る。これから生きていく私たちはもっと自分の感性を研ぎ澄まし、考えていかねばならない。生徒たちには、自分だけのことを考えるのではなく、人々が豊かな未来を築いていくためには、自分が何を願うか、どう行動していくべきか、この作品を通じて考えさせたい。

生徒たちにとって、ピカソの作品のイメージは子供が描くような絵、よくわからないというイメージが強い。ピカソは「20世紀最大の芸術家」、「創造と破壊の巨人」と言われるように、92歳の生涯を閉じるまでたくましい想像力で多様な作品を作り続けた人物である。8万点余という膨大な作品の中で「ゲルニカ」は彼の代表作である。

しかし、生徒はこの絵を見ても、初めは何が描かれているのかよくわからないだろう。少しずつ、さまざまな指導の工夫をしながら生徒が主体的に読み解いて想像力を働かせ、作者の意思に近づかせ

ていきたい。そして1枚の絵画が見る人に与える影響を実感させたい。一人一人の生徒が、これからの未来について考えていくことを期待する。

美しいだけが絵画ではない。絵画は自分の思いを伝える手段の一つでもある。ピカソの描かずにいられない思いを想像し、自己の心の中を見つめ、「私はどう感じ、どう思うか」を探っていくことが鑑賞である。「絵は生き物である。見る人の成長や様々な経験を通して変化し、また、見る人によっても変わるものだから。」といったピカソ。ピカソ自身は何の解説もしていない。それは「見る人の心によって、それぞれの受け取り方の違いがあって当然である。」という彼の考えからきている。生徒個々の受け止め方や感じ方を大事にしながら、この作品のもつ意味を感じ取らせたい。

表現の多様性を理解させ、そのよさを味わうことで美術での自分の思いや感動を表現することが大切であることを知り、これからの制作活動につなげていきたい。

豊かな感受性や想像力を育て、創造力を培うことは美術科の大きなねらいである。想像力を働かせ、自分で考えるということ。それは身近な人間関係にもいえる。いじめや争いなどがあつたときには、他者の気持ちを想像することで、お互いを尊重することへつながっていくのではないだろうか。授業展開としては、対話型鑑賞を取り入れ、作品をじっくり見つめて多くの気づきから様々な想像させる。また、時代背景や当時の新聞記事や作者の環境など提示しながら考えを深めさせたい。

言葉が通じなくても、視覚で共有できることが「アート」の力である。一人の画家が魂を込めて描いた作品を感じ取る力、また自ら創造する力を育てたいと考え本題材を設定した。

「ゲルニカ」の作品は戦争の惨禍を強く訴えている。災害も悲惨であるが、戦争は人間の知恵で止めることができるものである。世界や社会を見つめ、自分の考えをしっかりとつ力を育てていきたい。

そして「作品は心の表現」であることを理解し、違いやよさを認め、素直で自由な自己表現へとつなげていきたい。

3 研究主題との関わり

《研究主題》 「思考力」「判断力」「表現力」を育成する学習指導の工夫
～ 指導方法・指導体制の工夫改善を通して ～

今回の指導要領改訂では(1)「知識及び技能」、(2)「思考力、判断力、表現力等」、(3)「学びに向かう力、人間性等」に整理された。研究主題に関わる項目として、美術科の目標の(2)に

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどのついて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

とある。これをふまえて指導方法の工夫改善に取り組んだ。

【鑑賞の授業に関して】

作品を読み取る力をつけるために

①鑑賞の仕方・作品の見方の事前指導で捉え方・考え方を身に付ける。

・答えは一つではない ・自分の感じたことを大切にする ・他者の考えから思考を深めさせる

②つぶやきや発表での発言を大切にする。一人の意見を大切にする雰囲気を作り出す。

一方的な見方をせず一人一人の感じ方、考え方を大切にしていける。

③興味関心をもたせる題材と導入の工夫をする。

④ねらいを明確にした授業展開を行う。

⑤対話型授業と生徒間の話し合い活動を取り入れ、様々な考えを知り、思考を深めさせる。

⑥適切な段階での確でわかりやすい資料の提示をし、鑑賞の能力を深める。

⑦自ら考えようとする、考えを深めさせる言葉かけと多様な考えを引き出す問いかけ、個々の意見を尊重する。

⑧授業の振り返りをして、自分の考えを書くことで気づいたこと、学んだことをまとめ整理させる。

【表現の授業に関して】

①興味関心をもたせる題材の工夫

受け身に慣らされているためか自分で考えて表現することをおっくうがる生徒が多いように思われ

た。生徒のやる気が起こるような題材を取り上げることで、意欲的に生き生きと活動するようになるだろう。まず、生徒の実態をよく把握し、生徒の思いを十分引き出し、自己表現をさせたい。そのため、表現活動では、絵画、デザイン、工芸、彫刻という分野にとらわれることなく個性を生かした作品づくりをさせたい。材料も個々の作品に合わせて自由に選択させる。

②自己評価の工夫

生徒自ら計画表を作り、毎時間の反省と次回への課題を持たせる。自分自身を振り返る場作りを設定する。教師側は生徒一人ひとりのつまづきを確認し指導の手がかりとする。

③評価の工夫

結果より、過程を重視する。自ら考え工夫しているところ、発想力、想像力などを授業の中で見逃さない。

自己評価表を活用する。記号だけでなく自分の言葉で書かせることで、具体的な内容を知ることができる。また、授業で見過ごした点などを確認することができる。

④学び合える場の設定

グループでアドバイスし合う相互評価を取り入れる。このことによってお互いのよさを認め合い、また発想のヒントを得られることもある。「よさ」を認め合うことで、優劣や固定した価値概念にとらわれず自信をもって取り組めるのではないかと考えた。

⑤支援の仕方の工夫

支援には、生徒のつまづきへの支援と、よさを引き出し伸ばす支援の、二通りの支援があると考え

る。

○つまづきへの支援では、個々の実態に合わせて働きかける。

○よさを引き出し、伸ばす支援では、個々の思い、イメージを広げる手助けをしていく。

どちらの場合も個々の造形能力を高めさせるため、自ら考え判断するような、考えを引き出すような言葉かけをしたい。そのためには多くの手立てが必要だが、教えすぎないことも大切である。あくまでも生徒に主体的に考えさせたい。また、生徒一人一人に共感的態度で接することを心がけ、個々の考えを大切にす。満足感を与え、自信をもたせて次への意欲をわかせていきたい。

⑥学習環境

- ・制作に集中できる環境と個々のよさを認め合う人間関係づくり
- ・掲示物等の工夫（参考資料や資料などを設置し、制作へのヒントにさせる。）

4 学習指導要領上の位置付け

B鑑賞（1）鑑賞の授業を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（ア）造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

[共通事項]（1）「表現」及び「鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

5 目標及び評価規準

（1）目 標

ピカソの作品の造形的なよさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深め、作品が持つメッセージ考え、平和について関心を高める。

（2）評価規準

（関）造形的なよさや作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。

（鑑）造形的なよさや美しさ、描かれた背景、作者の心情や意図と工夫、美術が社会に与える影響などを感じ取り、自分の意見や考えをもって味わっている。

6 本時の学習（1時間扱い）

(1) 目標 同上

(2) 準備

○教師：パソコン、テレビ、資料、ワークシート等 ○生徒：教科書2・3下（日文）、筆記用具

(3) 展開

◎：十分満足できる状況 ◇：生徒への手立て

過程 時間	●学習活動 ○学習内容	指導上の留意点 （【共】：【共通事項】に係る内容）	評価と手立て 【観点】：評価規準、【評価方法】
導入 5分	<p>ピカソという人物に興味・関心をもつ</p> <p>●「初聖体拝領」の作品を見て、誰が描いたものか当てる</p> <ul style="list-style-type: none">・なぜの作者？・この作品は誰が描いたものか？ <p>○ピカソ15歳の作品であることを知る</p> <p>●ピカソについて知っていることを発表する</p> <p>○ピカソの生い立ちを知る</p> <ul style="list-style-type: none">・生まれた国スペイン・美術教師の父に幼少のころから英才教育を受ける。・10代で写実を極める。	<p>・事前に教科書を見せないことで、自分で発見したことを大事にする。</p> <p>・ピカソの作品という子供が描くような作品を思い浮かぶ生徒が多いので、初期の作品は写実的に高い技術を持っていることを押さえておく。（表現の工夫につなげるため）</p> <p>・「ゲルニカ」はピカソの育ってきたものからの影響もあるのでそこを押さえておく。</p> <p>・幼いころから闘牛に親しみ、近くの公園で鳩をスケッチしていたことなどの情報を伝える。</p> <p>・パワーポイントをテレビ画面で見せ、興味を湧かせる。</p>	<p>【観点】：ピカソについて、興味・関心を持つことができる。【観察・表情】</p> <p>◎：ピカソのことを積極的に知ろうとしている。</p> <p>◇：具体的な資料を示したり、エピソードを話したりなどして、興味や関心を高める。</p>
展開 37分	<p>「ゲルニカ」を鑑賞する</p> <p>●本時のねらいを知る</p> <p>ピカソは「ゲルニカ」で何を描いたのか？言いたかったのか？を考えよう</p> <p>●第一印象の記入をする</p> <p>●感想を発表する</p> <p>○作品「ゲルニカ」の背景を知る</p> <ol style="list-style-type: none">①題名「ゲルニカ」とは何か<ul style="list-style-type: none">・スペインの古都（地図提示）②大きさ（壁画）③描かれた時代背景④フランスで開催された博覧会においてスペイン政府から依頼されたもの⑤当時のスペインの状況<ul style="list-style-type: none">・内乱⑥ピカソの表現方法<ul style="list-style-type: none">・キュビズム <p>●作品の分析をする</p> <ol style="list-style-type: none">①何が描かれてあるか見つけ、それぞれが何を意味しているか想	<p>・生徒の反応として、「何が描かれてあるのかよくわからない。」「動物や人がいる。怖い感じ。」が多いと予想されるので、何が描かれ、何が起きているのか、感じたこと・疑問点を出させる。そこから個々の課題をもたせる。</p> <p>・作品読み取りのポイントを示す。</p> <p>・日本では小京都川越や金沢という、昔からある歴史ある街をあげ、具体的に街のイメージを持たせる。</p> <p>・大きさを実感するための横の長さのひもを用意して実寸させる。</p>	<p>【観点】：本時のねらいを理解し、作品鑑賞に主体的に取り組んでいる。 【観察・表情・記述】</p> <p>◎：教師の話に耳を傾け、作品を集中して観察し、気づき、発見、読み取ろうとしている。</p> <p>◇：視覚的にわかりやすい資料の提示や具体的な説明をすることで、作品のイメージをつかませる。</p> <p>【鑑】：様々な視点から、作品</p>

<p>像してみる。 ○ワークシート記入 ○グループでの話し合い</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>馬・牛・人物・兵士 電気・家の外か中か 消えかかった鳥・小さな花</p> </div> <p>●全体で疑問点について意見交換する</p> <p>①色づかいについて 葬式の色帯い・悲しみ イメージした色は何か。</p> <p>②画面構成について なぜ画面の左にむかっているのか。画面左側には何があるか。</p> <p>③ピカソの思いについて 写実表現も描けたはずなのに、なぜこのような表現をしたのか。</p> <p>④ピカソが言いたかったことについて ピカソの「戦争の悲惨さを伝えたいという思い・戦争への怒り」はどのようなものであったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ一つじっくり観ることで見えてくるものがあるので、<u>具体的な形など視点を示し</u>、問いかけをしながら、考えさせる。[共] ・答えはないので<u>自分のイメージを大切に</u>し、自由に思ったことを発表させる。[共] ・「観る人が意味を自分で考えればよい」という、ピカソの言葉を引用し、答えは一つでなく個々の自分の心の中にあるということを伝える。 ・話し合いが活発でないグループには、分析のポイントを示す。 ・自分なりの考えを記入し、グループでの話し合いの中で、違う意見から再度考えさせていくことを指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発表では一つの答えにするのではなく、他の違う意見を出させるような問いかけをし、どれも間違いではないことを押える。 ・友達の考えを肯定的にとらえさせ、お互いに聞きあう。 ・個々のイメージを大切にして、意見が一つにまとまらないようにする。また、細部もよく観察させ、<u>それぞれの意味をイメージし</u>、考えさせる。(折れた剣を握りしめた手や小さな花、見えづらい鳥の存在など) [共] ・モチーフの持つ意味は個々の生徒の感じ方を尊重し、多義的に引き出させる助言をしていく。 ・深めるための提示 牛と馬の比較 それぞれの表情の違い <p>牛：闘牛 馬：祖国 鳩：平和 動物は何かを象徴していることに気づかせたい。 なぜ<u>白黒のモノトーン</u>色彩か、感じ取れることは何かを考えさせる。 [共] ・画面の方向性に関して、生徒 </p>	<p>を分析し、自分の考えを持って話し合い活動に参加し、作品のよさを味わうことができている。</p> <p>【観察・表情・記述】</p> <p>◎：素直に自分の感じたこと、思い浮かんだことを想像し、自由に意見交換している。</p> <p>◇：教師がグループでの話し合いに入り、個々の感じ方に共感し、間違いはなく、自分の思ったことを素直に発言するよう指導する。</p> <p>鑑：想像力を働かせ、作品と向き合い、また他の意見を聞いて自分の考えを深め、どんな気持ちでピカソがこの作品を制作したのか理解できる。</p> <p>【発言・対話・記述】</p> <p>◎：知識や感性を働かせて作品と向き合い、見えていなかった部分に気づき、自分なりの価値を想像している。</p> <p>◇：一人一人の感じ方は違い、正解はないので、自分の思いに自信を持たせるようにする。</p>
---	---	---

		<p>から出なければ、教師側からの提示で、ピカソの思いに気づかせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争を写實的に描くのではなくキュビスムの技法をとって描いたことについて、見た人が立ち止って考える。 ・戦争リアルな表現と比較すると分かりやすい。作品のよさを読み取る力を支援する。 ・当時の新聞記事で様子を具体的にイメージできるようにする。 ・ピカソの憤り ・作品にかける思い ・すぐに指名しないで全体がしっかり考えるよう時間を取る。 ・戦争の悲惨さ・何の罪もない弱い者が犠牲となっているその憤り、おろかな戦争を二度と起こしてならないというピカソの思いをとらえさせる。 	
<p>整理 3分 5分</p>	<p>○現代の新聞記事から、未だに世界の各地で紛争があり、人々が傷ついている現状を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今日の鑑賞の授業で、気づいたこと・考えたこと・学んだことなどワークシートに記入する ●自己評価をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピカソの言葉だけを提示し、生徒自身が自分で考えることを大事にしたい。 《ピカソの言葉》 <div data-bbox="695 1167 1077 1400" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「絵は生き物である。」 「絵画は部屋の飾りではない。」</p> <p>「芸術家は人類や文明の最も本質的なものを危険にさらす戦いに無関心でいられない・・・」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・美術科通信で鑑賞文を掲載し、他者の考えを知り、さらに鑑賞を深めることができるよう事後指導とする。 	<p>鑑: ピカソの思いや表現のよさを理解し、今日の授業で学んだことを感想記入することができる。</p> <p>【記述】</p> <p>◎: 自分なりの考えをもって、「ゲルニカ」を味わい、ピカソの思いを感じ取り、感想記入することができる。</p> <p>◇: 文章にすることが苦手な生徒にはワークシートのメモ等で、授業を振り返りながら、個々と対話しながら指導する。</p>

備考 生徒数 27名

授業後の授業者反省：この指導案では2時間は必要な内容なので、作品を見る際、左側の牛、母子、花など絞って話し合わせるとよかった。
生徒たちはグループの話合いで他者の意見を聞き、考えを深めることができた。